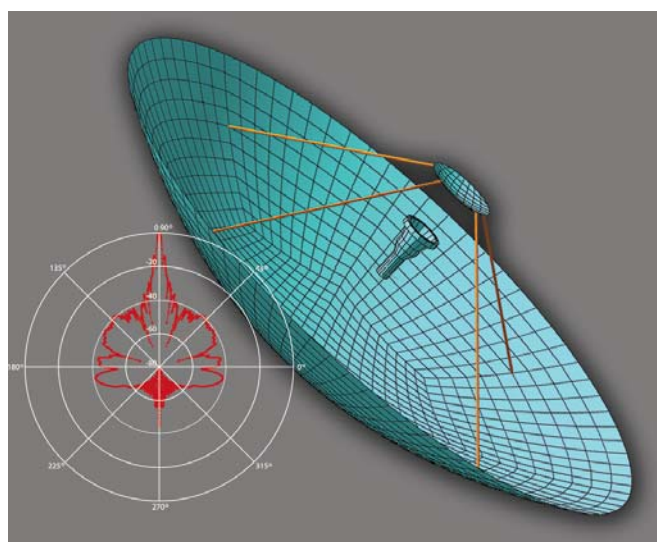
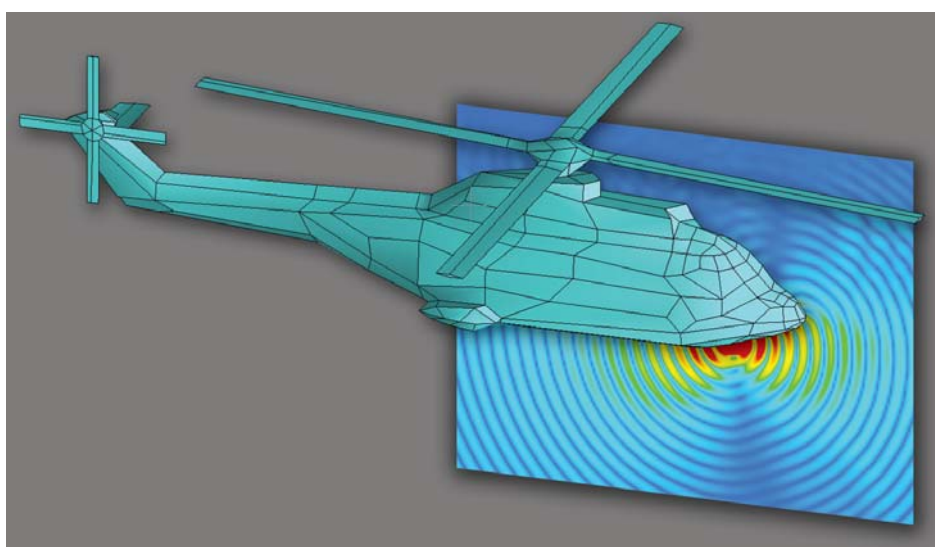


## ver. 9で実現した項目は…

- ・解析対象に対称性がある場合、**励振が非対称でも対称面の適用**が可能になり、アンノーン数の逡減（半減）、解析時間の短縮化を実現
- ・**大きなプレートへの新メッシングアルゴリズムの適用**によりアンノーン数が20%逡減し、解析時間は50%短縮
- ・**エッジ処理への新アルゴリズムの適用**により高精度解析がより確実化
- ・外部からインポートした電界磁界分布データで励振可能
- ・外部からインポートした遠方界放射パターンデータで励振可能
- ・新規追加オプション
  - GPU
  - PO Driven MoM

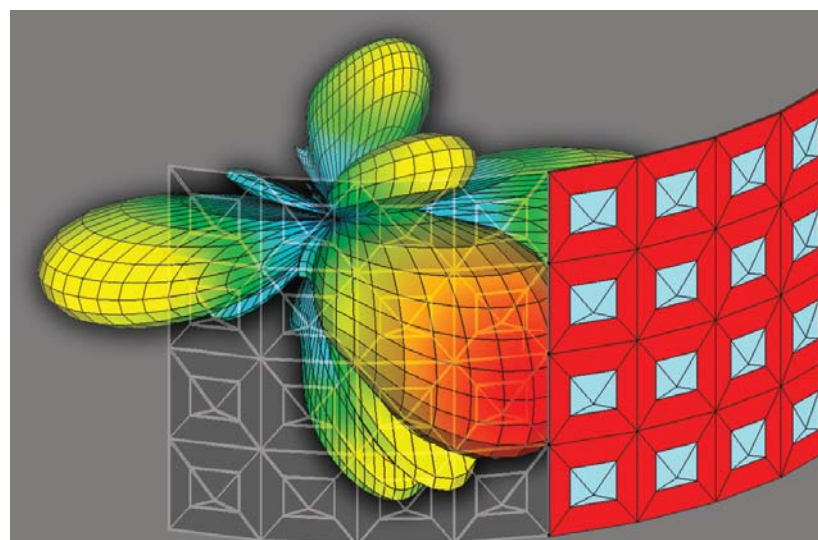
## GPUオプション (グラフィックカードを使用し、大規模問題の処理速度を加速)

- ・1枚の推奨GPUカードを使用した場合の加速の度合いは、
  - Matrix solutionは約6倍
  - Matrix fillは約3倍
  - Near fieldは約10倍
- ・2~3枚の推奨GPUカードを使用した場合、大規模問題のMatrix solutionは2~3倍
- ・Matrix fill及び電磁界分布計算アルゴリズムの改善によりエレメント (ワイヤ、プレート) が多い解析構造の解析時間が最大50%短縮
- ・マルチコアマシンで動作した場合のMatrix fillの並列処理の改善により4コアマシンで70~90%、8コアマシンで40~70%効率が向上
- ・多数点励振 (モノスタティックRCS計算の方向角度、マルチポート構造のYZSパラメータ等) をアウトコア処理する場合の処理方法の改善 (HDDからの行列の読みとり回数が1度のみで可) により解析時間の短縮が実現



- ・Preview画面上で**範囲選択によるズーム機能**
- ・グラフィックウィンドウの高機能化
  - 64個までのデータの重ね描きが可能に
  - グラフ描画の線やドットの色、太さやスタイルが選択可能に
  - 群遅延の結果表示が可能に
  - 2D及び3D放射パターン表示にFitting(Interpolation)の適用が可能に
  - Portオプションの取り扱い可能ポート数が2,000に拡大

- ・ドメイン設定の多様化と簡素化
  - **ドメインの名称化**が可能に
  - 材料定数が**既定のリストからも名称で選択**可能に
  - ドメイン仕様が”regular”、”composite”から選択可能に
- ・パワーバランスの計算の設定が選択可能に
- ・Structure tree dialog boxの高機能化で、**treeから直接**、モデル構成要素の**作成、マニピュレーション、仕様の変更**が可能に
- ・モデル構成要素の表やPreview表示画面で**複数の要素を選択し、同時に削除、コピーや貼り付け**が可能に



高次基底関数モーメント法